

ツタイどこへお出でなさるね、さぐめしお時さんどこへお出でなさる、御了見でござりませう」成程番頭、私しがだまつて出やうとしたのが、おゝきに悪るかつた、實は、このあいだから、一遍お時の顔が見たいと思ふて居る處へ、今隣りのあの三味線を聞いた、とことから、急にお時の顔が見たうなつた、どうぞ暫くの間、遣つてお呉れ、私は直ぐに歸へるから」それはいきまへん」なんでやエ」なんでと仰しやつても、マア、あ。ん。た。能う物を考へて御覽遊ばせ、お時さんをば、伏見のお宅へお入れ申すにも出て居なさつたお方の事ゆへ、今暫くお時さんなり、あ。な。た。の事をば、見抜いた上で、是れならばと目途がついたら、伏見のお宅へさしてからに、お時さんを納めやうと、云ふ事になつて居りますそれを今あ。ん。た。が、向ふへお出で遊ばしては、夫はお爲になりませぬ、今暫くの處は、あ。な。た。の御辛抱處でござりますからお宅は申すまでもなく、御親類でも、種々と御相談の上にて、私しをあ。な。た。のお側に斯うやつて、お付添ひ申して居るので……と云ふのも、あ。な。た。がお時さんの許へお出でなさらぬやうに、お宅さまなり、御親類からのお頼みです、それにお時さんの許へ遣つたと云ふては、私しア、何うも伏見の旦那さんや、御親類さまに申譯が立ちません、それともお出でなさるやうなら私しもお供いたして参りますが、若旦那、今日の處はどうぞおとごまり遊ばして」ア、番頭、おゝきに私しが悪かつた、かんにんしてお呉れ、ツイ何とも思はず、行きたいと云ふ氣が出て、お前までいらぬ心配をかけた、モウ決して行きはせん」イヤ、それで私しも安心致しました、キツト行ておくれなされますなや」ア、行きません、大丈夫や」それでは、お座敷で御ゆつくり……私しはチョツト御免こうむりまして」と門戸のしまりおして、又もや用便に這入りました、若旦那惣三郎は、座敷へ歸

つて、ジイト、座つて居りましたが、もとより、魂はお時さんの許へさして、行つ居りますので、何う思ひ直してみても座敷に座つて居られませぬ、またも村正をば腰に差し、此度は河原に飛び降りて三條の橋下をば、かみの車道へ上り繩手を下りまして、富永町のお時の許へ出て参りました（三絃唄萩桔梗、中に玉章忍ばせて、月は野末の草の露合 君を松虫夜毎にすだく更行く空や雁の聲 戀はかうしたものかいなア」お時うちかへ」オ、若旦那やおまへんか」お松、お時は居るか」ハイ、お宅でおます、御新造さん、若旦那がお出になりました」アラ、若旦那……あなたおひとりですか」ハア、私ひとりや」御番頭さんを連れずに、け。ふ。は何しに、おいでやしたのえ」何しにお出やした……これはおかしいなア、暫くお前の顔を見ぬよつてに、け。ふ。はお前の顔を見に來たのやがな」それは、能う來とくれやした……と、サア申しとおすが、御番頭さんと御一緒でおいでやしたのなら、よろしおすけども、あ。な。た。おひとりでおいでやしたのでは、チョツトでもこゝに、居ておもらひ申すといふ譯にはいかんのえ、どうぞ妾が可愛いと思召すなら、お歸り遊ばせ」それは分つて居るけれども、チョツト位居たかても構やしまい、一ばい飲まう、何んなどありあはせで、お酒を爛けて」お酒はおへんのえ」何んでないのんや」何んでないと仰しやるけども、今は、あのお松と妾と、ふたりきり、妾はお酒を飲みまへんやらう、夫れゆへ常にお酒のあるはずは、おへんがな」そんなら何ぞ、すしなど取りにやつてんか」あの子は、足を怪我して居ますよつてに、使ひにやると云ふ譯にゆきませぬ」そんならお前行ておいで」いまから行たとこで、おすし屋は、ヤマ入れて居ますは——」そんなら何ぞ甘い物、いし〜（牡丹餅）でも」今から行たとこで、いし〜もヤマ入れて居ます」そんならま〜で